



コラム

海外提携機関紹介

漢陽大学校東アジア文化研究所

Institute For East Asian Cultures, Hanyang University, Korea.

朴 賛勝（漢陽大学校東アジア文化研究所所長）

沿革

本研究所は、1974年に漢陽大学校附設の「国学研究院」として出発し、1982年に「韓国学研究所」へ改称してから、2009年9月には「東アジア文化研究所」に拡大・再編した。東アジア文化研究所へ改称したのは、2008年度に漢陽大学校の特性化事業の一環で、本研究所の「東アジア文化ネットワーク研究団」が選定されたことと関係して、研究所の研究領域を東アジアの文化研究へ本格的に拡張するためであった。

事業

東アジア文化研究所は、次のような事業を展開している。1) 東アジア文化と韓国文化についての研究及び教育、2) 学術誌、学術叢書、資料叢書などの刊行、3) 各種の学術会議、ゼミナール、講演会などの開催、4) 国内外の各学会、研究機関との交流・協力、5) その他、東アジア文化、韓国文化の研究に必要な事業などである。

研究叢書の出版

本研究所は、「韓国学研究叢書」として、『韓国近代初期における開化思想の研究』、『18世紀における朝鮮知識人の文化意識』、『19世紀における知識人の文化地図』などを発刊した。最近では、そのタイトルを「東アジア文化研究叢書」に変えて、『旅行の発見、他者の表象』などを刊行している。また、学術誌として『韓国学論集』を発刊してきたが、2009年度からこれを『東アジア文化研究』に変えて、現在まで50集を発刊した。

研究

本研究所では、2008年から4年間にかけて大学の支援を受けて、東アジア文化の交流及び比較研究のための「東アジア文化交流ネットワーク研究団」を発足し、朝鮮通信使、燕行使に関する研究、そして旅行記、漂流記、見聞録などに関する研究を進行してきた。

また、2012年には「東アジア人文学の系譜学研究団」と「東アジアの文化表象研究団」を組織した。「東アジ



ア人文学の系譜学研究団」は、10人の教授らが参加して、近代以降の東アジア三国（韓・中・日）の人文が近代以前の東アジア人文学とどのようにつながっていたか、西洋の近代人文学が東アジアへどんな経路を通じて受容されたか、近代以降の東アジア人文学がお互いどんな関係をもって発展してきたかなどを研究する計画である。これをもって、東アジア人文学の系譜を描き、現在の東アジア人文学の地形を捉えて、未来の東アジア人文学の進むべき方向を摸索しようとする。本研究団の事業は、2012年から2016年まで5年間展開される予定であり、歴史・哲学・宗教学などの分野から様々な専攻者らが参加している。「東アジアの文化表象研究団」は、東アジア三国の文化表象の形成過程、そしてその共通点と差異点などを明らかにすることを課題としている。本研究団は、これから3年間「東アジアの民族、国家、地域文化の表象」、「東アジアの日常生活文化の表象」、「東アジアの文化芸術の表象」というテーマで、年次的に研究を進める予定である。本研究団には、13人の研究者らが参加している。